

第5回小金井市緑の基本計画策定委員会 会議録

日時：令和2年10月26日（月）14：00～16：00

場所：小金井市役所第二庁舎8階801会議室

1 議事日程

- 1 開会
- 2 第4回緑の基本計画策定委員会会議録等について
- 3 第4回緑の基本計画策定委員会意見対応について
- 4 目標実現に向けた取組について
 - (1) 都市公園の整備及び管理の方針について
 - (2) 生産緑地地区内の緑地の保全に関する事項について
 - (3) 特別緑地保全地区内の緑地の保全に関する事項について
 - (4) 緑化重点地区の施策について
 - (5) 計画の進行管理について
- 5 その他

2 配布資料

- 資料1 第4回小金井市緑の基本計画策定委員会 会議録
資料2 第4回緑の基本計画策定委員会 意見対応
資料3 みどりの基本計画素案
参考資料1 キャッチフレーズについて
参考資料2 みどりの基本計画素案 参考資料
参考資料3 小金井市環境基本計画、みどりの基本計画小学生ワークショップ開催結果

3 出席者

(1) 委員

		氏名	選出区分
1	委員長	福嶋 司	学識経験者
2	副委員長	椿 真智子	学識経験者
3	委員	小木曾 裕	学識経験者
4	委員	大澤 利之	農業従事者
5	委員	益田 智史	商業従事者
6	委員	串田 光弘	緑化団体
7	委員	笠原 謙次	緑化団体
8	委員	福嶋 隆	公募市民
9	委員	鳥羽 浩子	公募市民

※ 欠席：尾路委員

(2) 事務局

環境政策課長 平野 純也
環境政策課緑と公園係長 小林 勢
環境政策課主査 中込 甲斐
環境政策課緑と公園係主事 須田 裕士

4 議事要旨 (⇒は応答・関連意見)

(1) 第4回録の基本計画策定委員会会議録について

資料1について、事務局（環境政策課小林係長）より説明し、以下の意見があった。

- 福嶋委員：p.7の自身の発言について、「ツバキやサザンカ、チャノキ」とあるが、チャノキをカタカナ表記するのは馴染みがない。「茶の木」と漢字で書いた方が良くはないか。

⇒福嶋委員長：和名ではカタカナで「チャノキ」だが、読み慣れた表記ということで漢字を使っても良いだろう。

- 串田委員：p.4の自身の発言について、「都はかつて緑量の基準として“緑視率”を使っていたが」とあるが「緑被率」に修正いただきたい。

(2) 第4回録の基本計画策定委員会意見・提案シートについて

第4回録の基本計画策定委員会意見・提案シートについて、事務局（環境政策課小林係長）より説明し、以下の意見があった。

- 福嶋委員：傍聴者は「主体はあくまで市民等」と考えているようだが、本委員会での議論では「主体は行政」という考えが主流だっただろう。私は公募市民として出席しているが、あくまでも主体は行政であると考えている。前回委員会等の意見を踏まえ、主な取組の掲載順は「行政⇒事業者⇒市民」と修正してもらった点は良いが、p.15の役割のイメージも行政が一番上にくるよう修正してほしい。

⇒福嶋委員長：この計画は市民のための計画であり、誰が主というものではないと思う。市が事務局として市民が実際にできる内容を考え、みんなでやっというように示すのがあるべき姿ではないか。

(3) 第4回録の基本計画策定委員会意見対応について

資料2について、事務局（委託事業者プレック研究所）より説明し、以下の意見があった。

- 大澤委員：p.24の農地面積のグラフを差し替えてもらいわかりやすくなった。これを見ると生産緑地よりも一般の農地の方が、減少幅がより大きくなっているということが見て取れる。農業に関する取組として、基本方針1(3)②の「取組の方向性」にもある通り、農業者として農業体験などの農地活用には前向きに取り組んでいきたいと考えている。ただし、予算が無いと思うように進まない部分があることはご承知おきいただきたい。これまで、私は幼稚園や小学校を対象とした農業体験などを実施してきた。東京都の補助をいただいて前原小学校の児童向けにダイコンやサツマイモの生産体験を実施したが、中にはうまく育たないものもあり、全てがうまくできるわけではないと学ぶことは、子どもたちにとって貴重な機会であると感じる。他にも市内でピザ窯を保有している人と連携して、規格外の野菜を使ったピザ作りをしたこともある。以上は野菜農家の場合で、植木農家の場合は体験等が難しいが、見学会などではできるのではないか。

- 椿副委員長：細かな表現の指摘に対して修正してもらった文書だが、p.1の「古代から」という表現は、時代区分上適切でない。前回までのとおり「武蔵野の面影を残す」で良いのではないか。また、3行目の「古くから」という表現も無くて良いだろう。p.5の「コミュニティの醸成」は「コミュニティの活性化」の方が良い。p.13の「保

全生け垣」は「保存生け垣」ではないか。p. 16 の「みどりに関する情報を収集する」は、「収集、発信する」でも良いのではないか。p. 17 の「みなさんと」ではなく「みなさんが」の方が良いだろう。p. 24 の「現象緩和」は「ヒートアイランド現象」などの言葉が必要である。p. 27 の「情報を見る」は受け身な印象を与えるため「情報を共有する」が良いだろう。

○福嶋委員長：p. 20 において市民の取組について「～します」と書かれているのは、やはり唐突で違和感を覚える。このページより前に、皆が連携してやっていくという説明が入っていると良いだろう。また、今日の参考資料は最終的にどのように扱われるのか。

⇒事務局：参考資料2については、計画本編の巻末資料とする予定である。

○福嶋委員長：キャッチフレーズは当初提示いただいた案に対して議論を重ねてきたと認識しているが、今回また新しいものが出てきたというのはどういうことか。これまでの案と今回提示されたものとの関係を説明いただきたい。本日、キャッチフレーズを決めてほしいとのことだが、キャッチフレーズはここで決めたものが最終案となるのか。

⇒事務局：今日提示したもののうち案1は、これまでの意見を踏まえ再考したものである。キャッチフレーズは、策定委員会で1つの案にまとめていただき、審議会に諮って決定できればと考えている。

⇒福嶋委員長：これまでの議論を踏まえたところがあるが、最終案の2つはこれまで出ていた意見とは全く違うもののように感じる。以前提示された3つの案や現行計画の案に、新たな案を加えて6案を並べて議論すれば良いということか。

⇒事務局：キャッチフレーズは細かな文言にこだわり始めると、一つの案としてまとめるのは難しいと認識している。今回は最低限、キャッチフレーズに盛り込むべき理念等を確認できればという思いで、参考資料1を整理した。

○笠原委員：キャッチフレーズは概要版にも書かれるもので、多くの市民の目に触れることになるだろう。案1は大人にとってはわかりやすいが、小学生にはややわかりにくいように思う。考え方としては、小学生でもわかるように、という点は大切にしてほしい。

○福嶋委員長：これまでの議論をなしにして最終案1と2について話し合えば良いのか。

⇒事務局：今までの議論が全てなしになったというわけではない。これまで出た意見も踏まえて議論いただければと思う。

○福嶋委員：今までの議論の集大成が案1と理解している。小学生にはわかりにくいという意見もあったが、難しい漢字をひらがなにするとか、豊かなくらしを小金井にするとか、そういった工夫をすれば改善できるのではないか。それに比べて案2は唐突すぎるのでふさわしくない。案1で多少文言を詰めるのが良いのではないか。

⇒鳥羽委員：福嶋委員のご意見に賛同する。案1をベースにもう少し子どもでも言いやすいフレーズにしたら良いと思う。

⇒益田委員：私も案2は突拍子すぎると考える。案1をベースにするので良いが、「豊かな」と言われると経済的なニュアンスを感じるため「心豊かな」としてはどうか。

⇒大澤委員：私も案2はふさわしくないと思う。案1は「豊かなくらし」の部分を「笑

顔のくらし」などとしても良いのではないか。

- ⇒福嶋委員長：これまでの議論では、「武蔵野」や「小金井」という言葉を入れてはどうかという意見もあったが、最終案にそれらが入っていないのはどう考えるのか。
- ⇒福嶋委員：「武蔵野」を入れると、武蔵野市を思い浮かべてしまうので入れない方が良さだろう。「小金井」は入っていても良いとは思いますが、「笑顔のくらし」などと入れれば無理に入れる必要はないだろう。
- ⇒小木曾委員：これだけの委員が集まっているので、これは今日決めてしまった方が良さ。事務局は案1と案2をよく考えて提案してくれたと思うので尊重したい。概要版で使うことを考えると、「誰でもわかる」というのは大きなポイントになるだろう。以前、笠原委員が提案してくださった「みんなでつくりつなげるみどりの小金井」は子どもでも理解できるのではないか。時間もあるので多数決で決めるのも手である。
- ⇒串田委員：正直どれでも良いという感じがする。今まで小金井市として作ってきた様々な計画全てにキャッチフレーズがついている。今日決めてほしいということであれば、他の計画で使った言葉を出してほしかった。同じ言葉が出てくるのは仕方ないとして、他の計画のキャッチフレーズを見てみないと良し悪しが判断できない。
- ⇒椿副委員長：各委員から出てきた案を見ると「みんなで育む」というのは重要なフレーズだと思う。また、笠原委員が提案してくださった「つなげる」という言葉もポイントと思う。「みんなで育み、つなげるみどりの小金井」はどうか。
- ⇒串田委員：「みんなで育み、つなげるみどりの小金井」で良いと思うが、「つなげる」は他の計画でも使っているように思う。
- ⇒椿副委員長：「つなげる」は改訂中の都市計画マスタープランでも使用している。
- ⇒福嶋委員長：他の計画のフレーズが入るのはあるが、本委員会としては「みんなで育み、つなげるみどりの小金井」として提案したいと思う。
- ⇒一同：異議なし。

- 福嶋委員：先ほども発言したとおり、p. 20以降の表現が行政⇒事業者⇒市民となっているのは良いが、p. 15とp. 16の表現も行政が上に来るようにしてほしい。また、p. 15はですます調だが、p. 16はである調になっている。ここは統一した方が良いのではないか。また、市民の取組について「～します」と書くと市民が自主的に行動ように見えるが、そのように振舞える市民はあまりいないのではないか。環境基本計画と表現を統一することは重要だが、「～します」という表現が適当であるとは思えない。
- ⇒福嶋委員長：「～します」という表現は、市民が直接行動を宣言するニュアンスが感じられる。そういう意味ではないと誤解がないようにした方が良さだろう。今の表現を活かすのであれば、p. 18以降の前置きとしてみんなで協働してやっていくということを書くのが良さだろう。p. 15とp. 16の表現は事務局で再検討してほしい。

(4) 目標実現に向けた取組等について

資料3について、事務局（委託事業者プレック研究所）より説明し、以下の意見があった。

- 福嶋委員長：今日説明いただいた第3章の4、5、6の内容が項目ごとの大方針であり、これまでの具体的な施策よりも前にあった方がよいと思うが、今から変えるのは

難しいと思うので、せめて具体施策との対応がわかるようにしてほしい。

⇒事務局：事務局としても第3章は何度も同じ話題が出てくるのは混乱を招くと認識している。今のご意見を参考に整理したい。

○椿副委員長：第3章の3までは全体の方針と認識しているが、4、5、6は第3章の中でどのような位置づけなのか。

⇒事務局：第3章の4～7は、都市緑地法運用指針の中で検討事項として定められているものである。

⇒椿副委員長：説明を聞いてほぼ理解できたが、今の第3章全体の構成はややわかりにくいように感じる。

⇒福嶋委員長：今から構成を大きく変えるのは難しいだろう。せめて、構成がわかるように説明を入れてもらえると良いのではないか。

○椿副委員長：事前に事業者としてできることはないか、事務局から宿題をもらっていた。本学としては、p.33に「環境負荷の低減に向けたみどりのあり方を検討します」、p.39に「みどりの調査への協力や、みどりに関するイベント・講座等の機会を提供します」、p.41に「多様なボランティア活動との連携や人材育成に協力します」の3点を提案できる。

⇒福嶋委員長：後で聞き取りをして反映してほしい。

⇒椿副委員長：資料3及び参考資料2について、さらに細かい語句の修正案がある。後日リストとして渡したい。

(5) 小金井市環境基本計画、みどりの基本計画小学生ワークショップ開催結果について参考資料2について、事務局（委託事業者プレック研究所）より説明し、以下の意見があった。

○事務局：本日が本委員会の最終回であり、計画の主体が誰なのかという話に決着をつけなければならないと考えている。みどりの基本計画自体は、どこの市にでもある計画で、一般的には市がやる計画と思われがちである。しかし、それでは環境やみどりは良くならない。今回市としては、いかに市民や事業者を巻き込むかが重要でありチャレンジしたいことである。行政や興味のある人だけでなく、市民みんなに興味を持って取り組んでもらえるような計画にしていきたい。そのリーダーシップを取るのは、市であると考えている。まずは行政の取組を前面に押し出すのはそのとおりだが、あわせて市民や事業者のみなさんにも主役として一緒に取り組みましょうというメッセージを打ち出したい。そのためにキャッチフレーズを子どもでもわかるものとするのは大事なことと思う。構成についてでもどんな部分でも良いので、全体を通してもう少しご意見をいただきたい。

⇒福嶋委員：小学生ワークショップの結果が、市の実情を如実に表していると思う。ごみの問題はたくさん意見が出ていて、これは危機感が市民によく伝わっているということだろう。一方、小金井市民はみどりに対してほぼ満足しているのだろう。昨年度実施したアンケート調査でもそのような結果が出ていた。みどりをもっと増やさなければいけない、足りないから何かをしなければならないという認識がないのではないか。木を植えたい、庭をつくりたいという意識は見えているが、実際にはできてい

ない。

⇒椿副委員長：事務局の考え方には賛同する。同時に、表現をめぐっては、みどりの基本計画自体の性格をどうとらえたら良いかが悩みどころであった。以前、本委員会でも議論したように、みどりはスケールや実態も色々である上に、みどりの減少が命に関わるものとは認識されにくく、どうしても他人事になりがちである。本編についてはたくさん意見を出し合って、地域の特性が出た良い内容になったと思うので、ぜひこれを普及する概要版を作り活用してほしい。

⇒福嶋委員長：みどりを増やすというのは個人レベルで取り組むのはなかなか難しい。これはある程度行政が引っ張っていかなければならないだろう。その際、ただみどりを増やすだけでなく、みどりの質にも気を配り、こまめに管理していかなければならないということを忘れないようにしてほしい。

⇒鳥羽委員：小学生ワークショップを傍聴したが、子どもの意見を聞いていると、環境について日頃から家庭でよく話し合っていることがよくわかった。みどりの一部の取組については、思うように実践できていないという結果も出たが、できる、できないは別として、まずは子どもの思いや考えを語ってもらえたことは大きな収穫であると思う。初めは大人しそうに見え子どもも、一人ひとりがきちんと考えを述べ、話をしている姿を見て、小金井市の将来は明るいと感じた。小学生ワークショップのような取組は、ぜひ継続してほしい。

⇒小木曾委員：計画の推進を考えると、概要版は重要だと思う。さらに重要なのは普及啓発用のリーフレットである。例えば、リーフレットを子どもに説明すれば、それを家に持ち帰って大人が目にもすることもあろう。子どもでもわかるものは、大人や高齢者も当然理解できるはずである。リーフレットの対象は幅広く作ってほしい。さらに、例えばワークショップ等のイベントで毎回計画を紹介し、説明するなど、持続的な普及啓発に努めてほしい。本編の表紙も手に取りたいと思えるものを考えてほしい。今回、主な取組を行政、事業者、市民と切り分けて明記することについて、初めは見慣れなかったが、市民や事業者を巻き込みたいという市の意向を示したものとして、最終的には良いものになったと思う。

○福嶋委員長：小学生ワークショップは今後も継続していけると良いだろう。また、計画書については、地域性を感じられる良いものになった。委員に感謝申し上げるとともに、事務局の努力を労いたい。

以上